

社会に開かれた育つ学校

～協働の喜びや自己実現の喜びにあふれた
魅力ある学校づくりを通して～
岩倉市立岩倉中学校



1 実践のねらい

学校、家庭、地域社会が密に連携し、確かな信頼関係のもと、それぞれの役割を果たし、相互に補完し合いながら地域ぐるみで生徒を育てることは学校づくりにおいて重要なことである。そこで、「育つ学校」を以下のように定義し研究を進める。

「育つ学校」とは

学校を外側にも内側にも開くことで、学校、家庭、地域の三者が、教育目標の共通理解を図り、目指す教育に向けて連携・協働することで、「生徒・教師が育つ」「家庭が育つ」「地域が育つ」学校を中心として三者が成長し合う状態のこと。

「生徒・教師が育つ」・・・生徒が成長段階に応じた「生きる力」を育む。また、「生徒が育つ」のに必要な力を教師が育む。

「家庭が育つ」・・・基本的な生活習慣の育成力が向上する。

「地域が育つ」・・・健全な発育に必要な社会環境が整備される。

2 実践の内容

○ 「地域の方から学ぶ」をテーマにした学習（8月、9月、1月）

地域で働く人を講師にお招きして、1年生を対象に「働く人に学ぶ会」を実施した。10種の職業分野の中から、自分の興味・関心のある分野を複数選択して話を聞いた。各業種の魅力や大変さ、また必要な資格など多岐にわたって学ぶことができた。さらに、社会で働くことや地域で暮らすことの意義について学び、各教科等で学んでいることが自己の将来にどのように役立つかを考える機会となった。また、自分自身を見つめ直し、自分が地域や社会にどのように貢献できるかについても深く考える場にもなった。



「働く人に学ぶ会」の様子

ホテルマンの方を講師にお招きして、2年生を対象に「おもてなし講座」を実施した。よい笑顔やあいさつの技術、正しいお辞儀の仕方など、たくさんのお話を教えていただいた。表情や立ち姿ひとつで、お客様が感じる印象が大きく変わることなどを、実践を通して学ぶこともでき、働くということや、サービスを提供するということがどういうことなのかについても考えることができた。職場体験だけでなく、将来のためになるとも貴重な学びをすることができた。日常生活や地域社会でも実践できることが多く、日常生活に目を向けるきっかけにもなった。



「おもてなし講座」の様子

3年生を対象に、本校の卒業生で現役の高校生を講師として招き、「卒業生に学ぶ会」を実施した。実際の上級学校の様子や学校生活の実態について語ってもらうことで、卒業後の進路決定の一助となった。

○ ボランティア活動（6月～3月、年間15団体）

市内の各種団体が実施するイベントに、ボランティアとして参加した。年間15団体から学校にボランティア要請があり、校内で参加者の募集を行い、年間延べ150人を超える生徒が活動に参加した。参加した生徒は、地域

の団体関係者と協力しながら、参加者と交流を深めた。こうした体験を通して、ボランティアの意義を考えるとともに、地域で暮らす方々の思いにも触れることができた。その結果、学校生活から離れ地域社会へも目を向けるようになってきた。

○ 農業体験（5月～3月）

2年生の技術・家庭科（技術分野）「生物育成に関する技術」の学習において、校区内の畑を借用し農家の方と連携して植物の育成に関わる学習を進めた。5月には、畑の土作りと畑への苗の定植・観察を行い、その後も継続して、かん水、除草等の管理作業・観察を実施した。7月には見事に育ったえんどうをうれしそうに収穫することができた。10月には、2度目の栽培準備を行い、サツマイモの栽培を行った。12月に収穫を行うまで、農家の方から継続的な支援を受けながら取り組んだ。その結果、単なる生物育成の知識だけでなく、農業と社会のつながりや人としての生き方について、学習を広めることができた。また、農家の方の食物に対する考え方・価値観にも触れることができ、貴重な体験となった。



ボランティアの様子



農業体験の様子

○ プラネタリウム体験会（10月30日）

坂下星見の会やJAXAなど諸機関の方を講師としてお招きし、3年生を対象に「プラネタリウム体験会」を行った。武道場に2つの大きな移動型プラネタリウムを設置し、20人を1グループとして体験した。プラネタリウムの中では体を寄せ合いながら、夜空や星座の美しさに歓喜の声を上げた。また、一方で天体望遠鏡の使い方や衛星の仕組みなどについても学んだ。その道の専門家からの説明は、生徒にとって新鮮で、真剣なまなざしで話に聞き入っている姿が印象的であった。また、講師の方々は、地元で様々な活動をされているので、地域ならではの話を織り交ぜて話していただいたので、日常生活の中でも星や宇宙、自然、地域性といったことにも視野を広げることができた。



2つのプラネタリウム



プラネタリウム内部の様子

○ 保育園訪問（9月：1クラス2時間×7クラス）

家庭科「幼児の生活と家族」の単元において、地元の保育園を訪問して、園児との触れ合いを体験した。純粋で素直な園児たちに囲まれ、生徒たちには自然と笑顔があふれた。園児たちと一緒に、元気よく踊りながら、優しい言葉をかける様子も見られた。10年前には自分たちも保育園に通っていた生徒たちが、自らの成長を自覚するとともに、地域とともに育ったことに感謝の気持ちを口にする生徒もいた。



保育園訪問の様子

3 実践の成果や課題

「育つ学校」をキーワードに、学校を中心として三者が成長し合うことを目標として取り組んできた。実際に、地域の方を講師として招いたり、ボランティアや実習のために学びの場を地域へ移したりすることで、日頃の学習を地域社会の実情と関連付けて考えることができるようになった。また、学習が終わった後に、何名かの生徒と保護者から講師としてお世話になった方の職場を実際に見て学びたいという声上がり、学校が窓口となり講師の方と連携することで、自主的な学びを深めることもできた。こうした取組を通して、協働の喜びや自己実現の喜びを味わうこともできた。三者が子供の健やかな成長に関して共通理解を図るとともに、三者それぞれがどんなことができるのかを自問し、お互いに提案することができた。こうした取組を継続していくことが今後の課題といえる。